

## 検討会議（R5.5.29）及び意見等記入票での主な意見等

### 1 全体を通じた方向性に関すること

全体会での発言	意見等記入票で寄せられた意見
<b>【背景・課題等に関すること】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いわゆるVUCAの時代と言われるように、社会の変化やそのスピードは予測困難である。</li> <li>○ デジタル技術が急速に発展・普及している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人口減少が加速度的に進む中、今後の本県の推定人口を踏まえると、更なる高校教育改革が必要であることは強く認識しているが、単純に高校を閉校してしまうことは、子育て世代、若い世代が各地域から流出してしまい、地域が衰退することは明らかである。</li> <li>○ 高校卒業後県外に出てしまう人が多すぎるのも課題なのではないか。</li> </ul>
<b>【検討の方向性に関すること】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県立高校の閉校に伴う地域からの人口流出や地域経済活動の停滞が懸念されるが、本県の子どもの数が減少している中、活力ある教育活動を維持するためには高校教育改革を継続していかななくてはならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本検討会議は、スタートラインであると受け止めており、「魅力」とは何か、<u>将来構想の観点からどのような「魅力」を創造できるのか</u>を検討する機会であることを願っている。</li> <li>○ 令和10年度以降の県立高校の魅力をつくるということは、現在、小学校低学年・中学年の児童にとって魅力的な学びの場を創造するということである。</li> <li>○ 本検討会議は、県立高校の「将来構想」の検討であることを念頭に意見交換すべき。</li> <li>○ これまでの検証データに基づき、現在の問題・課題を明確にした中で、枝葉末節にとらわれない、根本の部分での議論が必要なのではないか。</li> <li>○ 「<u>これからの時代に求められる力</u>」を明確に示し、<u>その力をどのように生かし、地域を活性化させていくか</u>という部分が希薄であると、どのようなプログラムや制度・組織改革をしてもぶれてしまう。</li> <li>○ 県民、地域、政治、行政、教職員、企業、親などに「これからの時代に求められる力」とは「何か」をどう訴え浸透させるかのパワーワードを簡条書き等で設定し、<u>多くの関係者を巻き込んだ学校教育ができる施策を打つ必要がある</u>。</li> <li>○ <u>夢のかたちを子ども達とともに暫定化し、可視化できるビジョン</u>にしていく必要がある。</li> <li>○ 「<u>これからの時代に求められる力</u>」が確実に育成される「<u>芯や真</u>」のある教育改革を望む。</li> </ul>

【本県として重視する視点に関すること】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>青森で育ち、青森で教育を受けたことに誇りを持ち、また、良かったと感じられる魅力ある高等学校づくりに向けた議論を進めたい。</u></li> <li>○ STEAM教育やアドバンスト・ラーニング、セルフレギュレーション、グローバルリーダー、DXなど、対応が求められるトピックは様々あり、これら全てを本県の高校に適用することも可能かもしれないが、本県としてどのトピックを強調していくのか、また、本県として新たなトピックがあるのかなど、<u>本県に即したトピックを検討</u>していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「『何を教えるか』ではなく、『生徒にどんな力がついたのか』」や、「子どもは保護者や地域、教師を選べない」という言葉から、学校全体で子どもたちを支援しながら、子どもたちの将来のために、青森県のために今こそ取り組んでいかなければならないと強く感じた。</li> <li>○ 本検討会議で、多面的な視点からの御意見を伺いながら、<u>本県の「子どもたちのため」</u>に<u>という思いを軸</u>に取り組んでいきたい。</li> </ul>

## 2 社会に求められる人財や育成すべき資質・能力等に関すること

全体会での発言	意見等記入票で寄せられた意見
【求められる人財に関すること】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本県の人口減少問題に対応するため、<u>社会の変化に伴う新しい価値の創造に向けたイノベーションを担う人財の育成</u>が必要。</li> <li>○ 国の次期教育振興基本計画において、<u>教育DXやデジタル人財の育成</u>が掲げられる見通しであり、本県でも着実に推進することが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会が常に求めるものは、<u>即戦力の育成</u>であると思う。</li> </ul>
【育成すべき資質・能力等に関すること】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 時代の変化への対応は必要であるが、根底にあるものは変わらない。生徒が身に付けるべき<u>資質・能力や知・徳・体の調和のとれた生きる力の育成</u>については、時代が変わっても不易な部分として重要。</li> <li>○ 成人年齢が18歳に引き下げられたことを踏まえ、社会への移行期となる高校段階において<u>受け身ではなく主体的に社会を切り拓いていくことのできる力を育成</u>する必要がある。</li> <li>○ 本県の子どもたちが大事にされていると実感が持てるような学校づくりや、<u>ウェルビーイングの実現</u>に向け、生徒一人一人の学びと成長を支えていく仕組みづくりが大事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>地域愛を育む教育</u>が必要である。</li> <li>○ 道徳等の学びも大切だが、<u>「自分が好きになる」自己肯定感</u>を育成する場の増加も期待している。高校生活における様々な学びをとおして、<u>生きる力を備え、自分で考えて行動できる人財</u>が育まれていくことを願っている。</li> </ul>

### 3 高校教育の方向性に関すること

全体会での発言	意見等記入票で寄せられた意見
【教育内容に関すること】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>多様な生徒を誰一人取り残さないための「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が必要。</u></li> <li>○ <u>デジタル技術が急速に発展・普及しているが、教育の本来の目的に照らし合わせた効果的な活用という点については、今後検証していく必要がある。</u></li> <li>○ <u>教育現場で一番に直面しているのは、不登校生徒や特別な支援を必要とする生徒など、<u>多様な背景を有する生徒の増加</u>であり、<u>今後も幅広い対応が求められる。</u></u></li> <li>○ <u>全日制・定時制・通信制課程の別や様々な教育制度について、多様で柔軟な視点を持って検討・改善し、本県の子どもたちが<u>学びたい場所で学びたいことを学べる環境づくりを進めていく必要がある。</u></u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>トランスジェンダー、LGBTQとは別に、小学生やそれ以下の子どもがユニセックス化している。これまでの「規格」に当てはめることは難しくなることが推測されるので、<u>これまでの常識にとらわれず、教育の質を高める「魅力」</u>について検討が必要である。</u></li> <li>○ <u>学校と地域の連携について、<u>地域団体により実施されている教育活動の現状を知ることも必要ではないか。</u></u></li> <li>○ <u>地区内の高校数が減少してきたが、その状況でも学校として、地域や保護者とできることを可能な範囲で連携しながら、地域を盛り上げ、必要なときは地区の学校総出での地域貢献や、<u>地域人材等を活用しながら、あおもり創造学からキャリア教育に繋げ、子どもたちにはたくさん</u>の大人と関わり合い、<u>様々な経験をさせる</u>などの「一人一人の夢や志の実現に向けた取組」が急務だと感じている。</u></li> </ul>
【体制に関すること】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>多文化化や多言語化が進んでおり、多様化が顕著となっている状況を鑑み、今後は、高校やその周囲だけを考え横断的に対応するのではなく、<u>大学、地域、小・中学校などと一体になって縦断的に検討していくことが必要。</u></u></li> <li>○ <u>学校・学科の充実や高校の魅力づくり、外部人材の配置などについては、子どもたち一人一人と向き合う時間を確保するための<u>教員の働き方改革</u>と一体的に考えて取り組んでいく必要がある。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>皆が一つのビジョンを創造できれば、<u>地域一丸となった教育改革が加速する</u>と思う。学校と地域と子どもたちが自信をもって今後多くの魅力ある教育プログラムに参加するための開示と広報活動が必須であり、予算・部署を設けて推進することを考えても良いのではないか。</u></li> <li>○ <u>しっかり考えて進学するためには、<u>これから</u>の時代に求められる力を育む高校教育の<u>カリキュラムと人財育成のプログラム</u>を早い段階から生徒や保護者に開示し、<u>適正な進路指導が行われる必要がある。</u></u></li> </ul>

#### 4 検討会議の進め方や検証・意見聴取に関すること

全体会での発言	意見等記入票で寄せられた意見
<b>【進め方に関すること】</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グローバル化が進む中で、今後青森県の高校づくりに必要な最適解を見つけるための多角的視点を持つ若手リーダーや専門家を検討会議に参加させてはどうか。</li> <li>○ 将来構想の観点から、令和10年度以降の県立高校において当事者として教育する立場の人（若手教員）が委員として検討することが望ましいと考える。</li> <li>○ 教条主義やこれまでの経緯、慣習にとらわれないためにも、課題を明確にし、この部分を改革せねばならないという課題意識・危機意識を分科会と地区部会が共有することが大事。</li> <li>○ 多くの課題があるからこそ、課題をシンプルに明確にすることが大事だと思う。是非、分科会・事務局はデータを踏まえた検証により将来の課題を予見し、検討会議委員全体と共有を図ってほしい。</li> </ul>
<b>【検証・意見聴取に関すること】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次期実施計画の策定に当たっては、多様な意見に耳を傾け、生徒や地域の声を吸い上げた魅力ある計画としてほしい。</li> <li>○ より良い高校教育改革を進めていくため、これまでの高校教育改革について検証を行い、改善していくことが大切。</li> <li>○ 今後、本県の取組はもちろん、他県の事例も検証しながら、持続的に子どもたちを集めることができる教育制度はどのようなものか検討し、持続可能な高校づくりを進めていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ よりレベルの高い成果物を作るために、発言の要点をまとめた議事録を読み返しながら検討を進めることで、非常に実りある検討会議になると思う。</li> <li>○ 設置者が違うため難しいかも知れないが、私立高校の今後の在り方や見通しを考えず県立高校だけの改革で大丈夫なのか。</li> <li>○ 中学校卒業生数と県立高校との関係だけでなく、私立高校、他県への進学者数のデータを示していただいた上で検討が必要。</li> <li>○ 会議の名称にある「魅力づくり」は、中学生の立場から見た「魅力」であると思うため、中学生や保護者等からも随時、意見、意向等を調査し、確認したほうがよい。</li> <li>○ 参加型の検討会の実施。実質的な検討にはブレインストーミングが欠かせない。本検討会議では、1960年代にシェリー・アーンスタインが提唱した『市民参加の梯子』を高次元で実現することを願う。</li> <li>○ 各団体からの選出で選ばれた委員が揃っており、それぞれの団体で意見を共有していただくためにもPDFでの資料配布をお願いしたい。</li> </ul>

## 5 県立高校の教育活動等に関すること

全体会での発言	意見等記入票で寄せられた意見
【学校・学科の充実に関すること】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、教員だけで対応するのではなく、外部人材を効果的に配置することも必要。</li> <li>○ 教育界と産業界の連携、協働体制の更なる強化が必要。地元産業の理解の促進につなげるための取組は、更に充実させていかなければならない。</li> <li>○ 担い手不足が叫ばれているホタテ産業に関連して、ホタテ養殖を学ぶ学科を設置するなど、地域産業の担い手育成に資する特色ある学科を設置してほしい。また、首都圏の大学を中心に設置が進んでいるデータサイエンスに特化した学科など、生徒のニーズや興味・関心が高い学科の設置も必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 5年一貫教育を行う高等学校の増加。これまで、居住する自治体に高校がない場合は他の自治体へ進学せざるを得ないケースが多かったが、遠隔教育や単位制学習が充実すれば、県内でも高等教育が受けられるようになることが期待される。</li> <li>○ 双方向学習の実践。グローバル化の中で日本の相対的な競争力が低下し、今、最も必要とされているのは、『主体的・対話的で深い学び』の実践である。特に高校では、生徒が率直に、生き活きと発言する機会を増してほしい。</li> <li>○ 人口減少が進み、地域から学校がなくなることによる不安を抱く地域において、教育における規模と質を担保するために、県内の地域校コンソーシアムを組むことから検討できないか（まず、小さく実践することで教育の質の担保を目指す）。</li> <li>○ あらゆる事例を参考に地域団体等とのタイアップが必要。</li> <li>○ これからの時代に求められる力の育成に向け、多様性に対応した教育プログラムの充実を図る。</li> <li>○ この人から学びたいと思われる魅力ある教師の育成（個人の資質に頼らないフォロー）や、これからの時代に求められる力を育成するための外部講師リストの作成と活用を進める。</li> <li>○ 企業や学校誘致はもちろん、先進的な農業基盤づくり、観光業の推進、そして青森の魅力発信とそれに見合う人財の育成（本県出身を自慢できる人づくり）など、総合的な改革が必要。</li> <li>○ 現在中学校では学年進行で35人学級編制となるため、高等学校においても35人学級編制を視野に入れて検討してもよいのではないかと考える。教員の負担が軽減され、生徒と向き合う時間の確保につながるものと思う。</li> <li>○ 現状の中学生の実態を踏まえると、普通科等は40人学級編制を35人学級編制に、職業学科等は35人学級編制を30人学級編制にすることも、多様な生徒への対応の充実が図られ、魅力化につながると考える。</li> <li>○ 県立高校の魅力づくりについては、私立高校に比べて特色を出しにくいのではないかと考える。一部のいわゆる「進学校」を除けば「入りたい高校」ではなく「入れる高校」に受検しているのが現</li> </ul>

	<p>状である。私学助成が手厚くなったことにより、公私の別なく選択しやすくなり、これまでに比べて通学の利便性や部活動の充実度などで高校が選ばれるようになった。</p> <p>私立高校以上に多様な体験を提供するためには、人材の発掘登用が必要ではないか。</p> <p>○ 全国からの生徒募集を拡充してはどうか。他県に発信できるものをもっている学校は積極的に全国募集を行うべきだと考える。</p> <p>それが刺激となって、県内の学校間での切磋琢磨につなげていければ、本県の教育の魅力、レベルの向上につながるものと考え。</p> <p>○ 若者の県外流出に歯止めがかからない状況であり、県外からの若者を受け入れていくという視点で、全ての県立学校で全国からの生徒募集を導入してはどうか。</p> <p>○ 他県では、必要十分な生徒を確保できている学校・学科がある一方で県外入学者ゼロの学校・学科もあり、一概には言えないが、そこに魅力の有無という違いもあるのではないか。他県の多くの事例があるため、情報収集し、本県独自の視点で分析をすることも必要。</p>
<p><b>【学校配置等に関すること】</b></p>	<p>○ できるだけ、各地域で高校教育を継続するための一つの手段として、例えば、かつての本校、分校に似たような形式で、本校に附属する「サテライト教室」を開設し、本校の授業をオンラインで学習できるような仕組みづくりを検討してはどうか。</p> <p>○ 人口減少という世の中の流れに抗おうとすると、莫大な経費と労力を要するため、「ゼロ高等学院」のようなリモート学習や通信制の形態を県立高校へ導入することができないか。</p> <p>○ ある程度の学校規模の維持（1学年が2学級以上、できれば6学級以上）を基本としてはどうか。</p> <p>生徒は、人と関わる活動の中で成長していく。学校行事、部活動等の教育活動による教育効果を上げるためには、ある程度の生徒数、教員数が不可欠であると考え。また、教育活動においては生徒同士のトラブルが生じることもあるが、それを乗り越えるように支援するのも大事な教育である。地域の実情もあるため一律にはいかないと思うが、学校規模の維持を基本に据えてはどうか。</p>